

令和5年度 第2回鎌倉市健康づくり計画推進委員会 議事概要

- 1 日時 令和6年(2024年)1月23日(火) 17時30分~19時
- 2 会場 鎌倉市役所 全員協議会室
- 3 傍聴者なし
- 4 出席者 鎌倉市健康づくり計画推進委員 計15名
古屋博行氏(委員長)、深澤健二氏(副委員長)、足立尚史氏、新井宏明氏、五十嵐いづみ氏、石崎隆之氏、今井一登氏、勝畑尚幸氏、川村由起子氏、高木亮氏、寺杣智子氏、新津豊氏、山岡明美氏、山口薫氏、若木一美氏(遅れて参加)
事務局 鎌倉市市民健康課 石黒課長、片瀬、石井、沖、水島、門田

5 議事内容

事務局：本日の会議成立について報告。傍聴者なし。

古屋委員長：(開会のあいさつ)

国では健康増進、医療、介護の三つの計画が令和6年4月から同じタイミングでスタートするということになっている。健康増進計画については、「健康日本21」の次期計画が昨年末に決定され、それを受けて神奈川県の方でも「かながわ健康プラン21」の第3次計画について今ちようどパブリックコメントを実施し、最終的な取りまとめの段階に入っている状況となっている。

一方、鎌倉市では令和8年度から新しい計画に入ることだ。次期計画を立てるにあたって材料となる市民アンケート調査を来年度実施する予定ということで、前回の会議では大まかな項目について皆さんに審議していただいたところだ。本日も早速、このアンケート調査の内容について、事務局から説明をお願いしたい。

【議題1 計画評価及び策定のためのアンケート調査の内容について】

事務局：参考資料「鎌倉市健康づくり計画及び第3期鎌倉食育推進計画に関するアンケート調査の概要について」参照。前回の委員会でも説明させていただいたが、少し時間が経ったので、再度簡単に説明させていただく。

このアンケートの目的は、健康づくり計画と食育推進計画の評価及び次期計画策定にあたって、市民の健康や食育に関する理解や関心、健康づくりや食育推進に関するニーズなどを把握し、今後の事業の展開や方向性を定める基礎資料とするための実態調査を行うこと、また、調査結果と各種データとを比較することによって、鎌倉市の置かれている現状を把握することとしている。なお、健康づくり計画と食育推進計画は、現行の計画期間がどちらも令和7年度までとなっており、令和8年度の計画改定にあたっては、両計画を一体的に策定する予定となっている。

アンケートは、年代によって対象を7つに分けて抽出するとともに、質問も年代によって分けて作成する。全年代に向けて郵送で質問票と紙での回答用紙を送付し、紙回答を希望する方は返信用封筒での回答、電子回答を希望する方は記載されているQRコードからアクセスして回

答を行っていただく。アンケート業務については、「鎌倉市健康づくり計画及び鎌倉食育推進計画の一体的策定支援業務」として、計画策定支援業務と合わせて委託で実施する予定。業者選定は公募型プロポーザルで行い、令和6年度にアンケート調査、令和7年度に計画策定支援、という2カ年の契約で実施したいと考えている。

次に、アンケート内容について、資料1『令和6年度 鎌倉市健康づくり及び食育についての意識調査』質問項目案」参照。この資料はすでに何回か見ていただいているものだが、前回から少し修正を加えている。具体的には、夏に実施した第1回健康づくり計画推進委員会で少し修正のご指摘をいただいた。資料では、下線や見え消しにしてある部分である。委員からは、質問と答えの単位が違っている、質問内にカッコ書が多用されていて読みにくい、といったご指摘があった。

例えば、通し番号31、献立についての質問だが、以前の質問は「お子さんの食事の献立に、主食(ご飯、パン、めんなど)、主菜(肉、魚、卵、大豆製品を材料にしたおかず)、副菜(野菜を材料にしたおかず)がそろっていますか。」というかたちで、一つの質問の中に()が3回出てきていた。ご指摘を受け、「お子さんの食事の献立に、主食、主菜、副菜がそろっていますか。※主食：ご飯・パン・めんなど、主菜：肉・魚・卵・大豆製品を材料にしたおかず、副菜：野菜を材料にしたおかず」といったかたちで説明は※で補足するように改めた。その他の部分についても、なるべく分かりやすくシンプルな表現に改めた。

また、各質問の後ろに(ひとつだけに○)といった記載があるのが見にくいというご意見もいただいたが、こちらについては、実際に質問票を作成する際に、対応したいと考えている。例えば、冒頭で「特別記載がない場合は、一つだけ選んで○をつけてください」など答え方を指定してはどうかと考えている。

なお、質問内容自体を変更したものはない。

このアンケート内容については、今回の委員会で大方確定したいと考えているので、ご意見いただければと思う。

(質疑応答等)

川村委員：資料1を見ると、確かに(ひとつだけに○)が多い。基本一つだけに○として、複数選択可のものは注釈をつけるようにしたら良いと思う。

また、WEB 回答はプルダウンがメインになると思うが、答えが二つの場合はラジオボタンが良いと思う。プロポーザルで業者選定を行うということなので、選定した業者とよく相談して決めてほしい。

紙もWEBも、実際にアンケートを行う前にユーザーテストをしたらどうか。ITリテラシーが高くない一般の人でもスムーズに回答できるような作りになっているか、といった視点が重要。プロポーザルの仕様にユーザーテストのことまで書けるとよい。

古屋委員長：テストを誰にやらしてもらうかなど課題もあると思うが、事務局からはいかがか。

事務局：年度が始まってすぐに公募手続きを初めても、契約できるのは早くても7月頃となる。ユーザー

テストまでやってスケジュール的に間に合うか、というのが懸念される場所である。
仕様に入れられるか、誰にテストしてもらうか、など検討課題としたい。

古屋委員長：その他意見がなければ次の議題に移るが、アンケート調査について、細かいことでも気づいた点があれば、事務局にご連絡いただきたい。

【議題2 健康づくり計画推進委員会・食育推進会議の令和6年度以降のスケジュールについて】

事務局：資料2「健康づくり計画推進委員会・食育推進会議の令和6年度以降のスケジュールについて」参照。先ほどもご説明させていただいたとおり、令和8年度からの新たな計画においては、健康づくり計画と食育推進計画を一体的に策定する予定となっており、それぞれの審議会についても一本化する予定である。当初、計画改定後の令和8年度から一本化する予定としていましたが、計画改定の際には一つの審議会で協議していただいた方が、意見が集約しやすいため、一本化する時期を一年ほど前倒ししたいと考えている。

それぞれの委員会の現在の委嘱期間は、こちらの健康づくり計画推進委員会が令和6年4月まで、食育推進会議が令和7年6月までとなっている。そこで、食育推進会議の委嘱期間終了時に、健康づくり推進委員会の委員を一旦解職させていただき、新たな委員会を設置し、委員を委嘱する予定である。

その準備として、令和7年2月議会において、令和7年6月施行の新たな委員会の条例を制定し、その条例の付則で、新たな条例施行時に健康づくり計画推進委員会条例と食育推進会議条例を廃止することを明記するもの。こちらの健康づくり計画推進委員会は令和6年5月以降、新たな委員を委嘱させていただく予定だが、その際には予め任期のスケジュール等をお示しさせていただき、途中解職についてご理解いただきたいと考えている。

(質疑応答等)

古屋委員長：少し分かりにくいですが、健康づくり計画と食育推進計画をまとめるために、各委員会も統合するとのこと。この健康づくり計画推進委員会は任期3年ということでやってきたが、統合する際に前倒して委嘱を解くということだ。健康増進や食育の取組を効率的に進めていくためだと思うが、何かご意見はあるか。

事務局：現在は、食育は健康づくりの食生活と被る部分が多い。それぞれの委員会でも同じような内容を協議してもらっている状況。そのため、アンケートを同時実施するとともに、計画も一本化する予定である。

ただ、先日食育の会議を開催し、同じ説明をさせていただいた際、統合について懸念する声が上がった。食育の中でも食の文化・マナー・環境などは健康づくりには含まれていない部分であり、統合することによって抜け落ちる部分があるのではないかという意見が出た。この部分は、計画の構成や表現の仕方など丁寧にやっていかないといけないと考えているが、やはり同じ委員で考えていかないと一体化が難しくなってしまうということもあり、委員会の統合を前倒しでさせていただければと考えている。実際に統合してやっていく中で、不都合があれば都

度対応していきたい。

深澤副委員長：ちょうど本日、厚生労働省の過労死の研究会議に出席してきたところである。医療職などの労働時間も長さも非常に問題だが、それ以上に課題なのはカスタマーハラスメントの問題である。

文化やマナー、人を大切にすることなどは健康づくりにもとても大事なことなので、食育と統合してそういったことも計画に入れていくというのは、今の方向性とずれるものではないと思う。

古屋委員長：必要があれば食と健康でワーキンググループを設けることなども考えられると思う。ただ、予算の問題もあるので、事業が重複するのは良くない。統合に反対意見がなければ、その方向で進めていただきたい。委員の委嘱についても、統合のため中途半端な委嘱期間になってしまうかと思うが、よろしいか。

新津委員：スケジュールの全体像が分かりにくいので、説明いただきたい。

事務局：資料2の下段、参考の表をご覧ください。

本日の会議が令和5年度1月、太枠で囲まれた第2回健康づくり計画推進会議で、現在の委員の任期での最後の会議となる。その後、健康づくりとして新たに委員を委嘱させていただき、令和6年度7月と1月に委員会を開催する予定。この時はまだ食育の会議とは別に開催する。また、その間の令和6年8～9月頃に先ほど説明させていただいたアンケート調査を実施予定である。

食育推進会議の任期が令和6年度の会議で終わるため、それに合わせて委員会を統合する。その準備として、令和6年2月議会で新たな条例を制定し、施行は少し先の令和7年6月に設定する予定である。

健康づくり計画の委員は食育推進会議の委員の任期に合わせて、令和6年度までで一旦解職させていただき、その後令和7年度に入ってから新たな委員会の委員の募集や委嘱を行い、令和7年8月頃から、健康づくりと食育を統合した新たな委員会を開催していく予定である。

複雑で申し訳ないが、以上のようなスケジュールとなっている。

深澤副委員長：食育推進会議がどういったことをやっているかを簡単に説明いただいた方が、委員の皆さんにイメージが伝わるのではないか。

事務局：食育推進会議だが、ここ何回かはこちらの委員会と全く同じ内容をご審議いただいている。

食育推進計画については、健康づくり計画の食生活と重複している部分が多い。第3期食育推進計画を策定するにあたっては、健康づくり計画のアンケートやコラムを使っているので、内容も見た目も似ていると思う。参考となるよう、本日皆さんに食育推進計画の計画書をお渡しさせていただく。

深澤副委員長：鎌倉市は伝統食や山海の食材もある。そういったものを市民にPRしていきたいのか。

事務局：伝統食としては建長寺のけんちん汁が有名である。いろいろな活動をしている、あるいは、していきたい市民が多く、食への関心度が高い地域だと思う。食育推進会議の現在の会長は日本栄養士会の会長で、食をとおして世界を飛び回っているような方なので、会議でも今後の日本の食がどうなっていくかといった広い視点での考えや意見が出ている。

古屋委員長：食育というと学校現場ではどうか。

五十嵐委員：学校では栄養士が食育を行っており、地産地消などについて子どもたちに伝えている。今後委員会が統合されるとのことなので、そういったことも考えられる会になればよいと思う。

【議題3 その他】

事務局：新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、市民健康課の事業でもコロナ禍前に戻していこうとする動きがあり、食育の事業では試食も再開できるようになってきた。健康づくり計画に関連する部分についてご報告をさせていただきたい。

まず、鎌倉市で行っているICT活用健康づくり事業について報告させていただく。

令和3年6月より、鎌倉市ではDeSCヘルスケア株式会社に委託し、健康アプリkencomによって「古都をトコトコ鎌倉健康歩イント」としてICT活用健康づくり事業を行っている。歩数やログインによるポイントを貯める機能に加え、本市の国民健康保険に加入中で国保特定健診を受診した市民に関しては、健診結果や処方履歴の閲覧がアプリ内のできるようになっている。今年度実施したキャンペーンによる登録者数の増加は、4月の「みんなで歩活キャンペーン」240人、6月の「新規登録キャンペーン」528人、9月の「友達招待キャンペーン」55人、10月の「みんなで歩活キャンペーン」192人、12月1日から現在も行われている「新規登録キャンペーン」では1月7日時点で138人の増加があった。また、現在の累計登録者数は4503人で、昨年度からの増加は1237人となっている。定着率(いわゆるアクティブユーザー)は59.8%。キャンペーンを行うことで新規利用者数を増やし、定着率も6割近くを占めているため、今後も定期的なキャンペーンの実施と、定着率を増加させるためのコンテンツをより充実させていきたい。

続いて、子ども食堂の取組について、食育事業に関係が深い内容とはなるが、皆さまにも共有させていただければと思い、ご報告させていただく。

鎌倉市内で子ども食堂や地域食堂を運営している団体が集う場として『みんなべ協議会』(=みんなで食べるの略)が開催されており、市からは市民健康課の他、生活困窮対策の観点から生活福祉課、ひとり親支援の観点から子ども相談課が出席している。市内で複数の子ども食堂を運営しているNPO法人ふらっとカフェ鎌倉さんが事務局を務め、現在14ほどの食堂が加わ

っている。会則などはこれから決めていくとのことだが、食堂同士の情報共有、物資の譲り合いや市からのお知らせができる場として、有用だと考えている。

みんなべ協議会からは、特に周知の部分で市の協力がほしいという意見があり、ホームページ更新を行ったほか、来年度はみんなべ食堂を紹介するマップを作成し、小中学生全員に配布することも予定している。また、生活福祉課の方では、事務局のふらっとカフェに対して、地域食堂の新規開設サポートにかかる人件費やみんなべ協議会の運営や連絡調整にかかる人件費を支援する予定とのこと。将来的には各小学校区に一つの子ども食堂を設置したい、ということで活動をされており、市としてもできるサポートをさせていただきたくほか、食育事業との連携もしていければと考えている。

(質疑応答)

新津委員：子ども食堂のマップや一覧表のようなものは現在も何かあるのか。

事務局：現在はなく、市のHPで食堂の案内を掲載しているにとどまる。みんなべ協議会の会議の場で、市のHPを子どもが見に行くことは考えにくく、紙が一番子どもの目には触れやすいので作成できないかという意見が出た。市としても賛同してマップを作成することになった。

夏休み中食事に困る子どもや保護者がいることが考えられるので、夏休み前にはマップを作成して配布したいと考えている。

また、鎌倉市内では、今のところ毎日やっている子ども食堂はなく、多くても週1回、月1回というところも多い。いつどこが開催しているかわかるよう、まずは夏休み中の分だけでもスケジュール表を作成し、マップと一緒に配布できればと考えている。

古屋委員長：給食がない時期が大事ということか。

事務局：給食は皆さん頼りにされている。生活困窮の方の視点から見ても長期休暇はお困りの方が増える時期、ということを生生活福祉課の担当者も言っており、そこに向けてやっていきたいということである。

寺杣委員：子ども食堂は予約制なのか。

事務局：コロナ禍で予約制に変えたというところもあるが、予約不要のところもある。その辺も、目で見てわかるようにマップに反映させたい。

五十嵐委員：家庭によっては、保護者の体調不良で子どもの食べ物を作れないケースもある。食堂まで行ける家庭は良いがそうでない場合も多いと思うので、配食サービスなどがあるとよい。

事務局：こども相談課の事業で対象者は限定されてしまうが、保護者が子どもの食事を用意できない場合は、配食もやっている。

また、高齢者の食事を作っている事業者などでも、食事を少し多めに作ることは出来るが、配食の人手がないという声も聞く。

今の説明で「子ども食堂」という言葉を使わせていただいたが、ふらっとカフェさんなどは対象者を限定せず、ふらっと誰でも参加できるということをコンセプトにされている。一人暮らしの高齢者も参加されていて、世代間交流もあると聞く。子どもも当然学区のしほりなどはないので、どこの食堂でも行ける。人とつながれる居場所としても、今後大きな役割を果たせるのではと考えている。

古屋委員長：子どもの健康格差はなくしていかなくてはいけないので、非常に大事な事業だ。いかに情報を共有するか、ボランティアで活動していただける方がいるかといったことが課題だと思うが、今後進めていくべき事業なので、しっかり予算をかけてもいいと思う。

深澤副委員長：この会議は年数回しかないが、学校や幼稚園・保育園、薬局、病院等とコミュニケーションをとって、情報を得やすい環境の整備をしていく必要がある。

寺杣委員：小児科の前の薬局に勤めている。子ども食堂の情報は小児科や薬局でも市民の方に伝えたい情報なので、媒体ができたならお知らせできる。

高木委員：子育て世代からの意見だが、特に高学年以上の子どもは家に学校からの配布物を持って帰ってこない。今は一人一台タブレットが配られているので、紙のマップを1回配布して終わってしまうより、タブレットで配信するのも良いのではないか。電子であれば情報の差し替え等もできる。

事務局：教育委員会と調整して進めたい。

川村委員：タブレットというのは良いご意見だと思った。最近高学年以上だと皆スマホを持っている。子どもが唯一入れられるアプリがLINEなので、LINEアカウントを作ってプッシュ型で子ども食堂の情報を発信するもよいのではないか。

深澤副委員長：格差の話からすると、スマホを持ってない子供もいる。また、本人が情報をコントロールできるかというとなかなかできないので、ぜひ学校の先生など他人がケアしてあげてほしい。

川村委員：鎌倉市に貧困世帯の方はどのくらいいるのか。

事務局：食育推進会議でも同様の話題が出たが、細かい数字は把握できていない。生活福祉課に確認したい。ただ、コロナ禍で貧困に関する相談は確実に増えたと聞いている。

川村委員：この事業は貧困のデータをもとに施策を検討されると良いと思う。

自分も御成町のふらっとカフェにボランティアで参加したことがあるが、来ている子どもよりボランティアの数の方が多かった。本当に必要としている地域でやっていたら来る人の数の方が多いはずである。必要とされる場所に子ども食堂を作った方が、本当に必要な人に届く確率が高まるのではないかと思う。

事務局：鎌倉市の場合、困窮世帯の方が固まって住んでいらっしゃる地区はなく、また自分たちが困っているということを人に知られたくないという状況もあり、本当に必要な人に届けたいがそうになっていない部分もあるという話は聞く。

また、ふらっとカフェさんの拡大の仕方は、食堂をやりたいと手を挙げる人にノウハウを伝えるというもので、ずっと一緒にやるわけではなく、地域で一緒に運営できる人を探してくださいというスタンスである。そのため、どの地域にも満遍なく食堂を作るとするのがなかなか難しい。市としてサポートはしているが、市の事業ではないため、広がり方ややり方が違うということをご理解いただければと思う。

【各委員からの現状報告等】

古屋委員長：先ほどの議題の中でもあったが、今期の健康づくり計画推進委員会の委員の任期が今年4月までで、現委員での会議開催は今回が最後になるということだ。せっかくなので、委員の皆さんから、ご所属の取組状況や課題などについて、一言ずついただきたい。

今井委員：医師会としてこの健康づくり計画推進委員会で何かできればと思っている。今後また参加出来たら良い案が出せればと思う。

勝畑委員：歯科医師会の勝畑です。毎回、いろいろな職種の方の話が聴けて勉強になっている。歯科医師会にも何か役立てることができればと思っている。

石崎委員：令和7年度は健康づくり計画推進委員会と食育推進委員会を統合して2本立てで進めていくということで、令和6年度は準備期間となると思うが、三菱電機鎌倉製作所としても微力ながら協力していきたい。

寺杣委員：薬剤師会の寺杣です。この会議で沢山いい案が出て、発信の仕方が難しいと常々感じている。よい発信の仕方を皆さんと考えていけたらと思う。

新津委員：鎌倉市自治会総連合会を代表して参加している新津です。

新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、我々自治会でもいろいろなイベントが復活し、そこで挨拶させていただくことも多い。「コロナ禍が終わってようやくマスクが取れた」と言おうとしたところ、こちらの会議もそうだが、相変わらずマスクを付けている方が多いと感じている。

若木委員：遅参しました。鎌倉市レクリエーション協会の若木です。

レクリエーション協会も健康づくりにぜひ取り組んでいきたいと思っている。先日、某所で健康づくり計画の小冊子を手に入れたが、非常にコンパクトに必要な事項がまとまっていて良いと思った。

足立委員：鎌倉ガイド協会に所属している。こちらの委員になった最初の挨拶で、歩くことが健康にとって重要とお話させていただいたが、現在もガイドなどで月 100 ㎞歩いている。今日も横浜国大附属小学校の生徒に日本遺産のガイドをしてきた。

我々ガイド協会では、コロナ禍前は年間 2 万人を案内していた。今はその半分程度。歩く人が少なくなってきたと感じている。

人は目的がないとなかなか歩かない。今でしか見られない綺麗な花、風景など、鎌倉には素晴らしい場所がたくさんある。鎌倉のことを一番知らないのは市民ではないかと思う。鎌倉という良いところに住んでいるので、それを活用しない手はないと思う。たくさん歩きましょうと伝えたい。

川村委員：市民委員という立場で委員会に参加させていただいた。今まで培った知見を活かして鎌倉市に貢献したいという想いで市民委員に応募した。この委員会で得たものは、友人など周囲の人たちと共有していきたい。自分はこれで最後の委員会となるが、引き続き鎌倉市をより良いものとしていただければと思う。

高木委員：鎌倉商工会議所青年部で会長をしている。青年とつくが、本日説明があったアンケートの区分だと多くが壮年となっているがご容赦いただければ。我々青年部は、鎌倉市で会社経営、個人事業主などをしているものの集まりで、子育てをしている年代が多い。親としての意見、子どもを見ての意見ができると思う。来年度は会長が交代となるので委員も変わるが、青年部を上手くサンプルとして使っていただければと思う。

山口委員：神奈川県栄養士会の山口です。健康づくり計画と食育推進計画を一本化するとのことなので、より一層気を引き締めて、市民の方のために栄養士として何ができるかということを考えていきたい。

食育の成果は数値化することが難しいので、市民アンケートのデータを取っていただくのはとても参考になる。

新井委員：鎌倉私立幼稚園協会の新井です。日頃の子ども達を見ていると、今回説明があったアンケート調査にどう回答するのか少々不安に感じることもある。朝食を食べているかという質問があるが、朝お菓子を食べてきた、というような子どももいる。

やはり健康づくり計画や食育のことを市として推進していくことはとても大事なことで改めて感じた。

幼稚園としては、保護者を支えていくことが一番大事になっている状況。これからも保護者を

しっかり支えていきたい。

五十嵐委員：関谷小学校校長の五十嵐です。本当に各家庭のニーズが違っていて、それぞれ一人ひとりのことを考えていかなければいけないと日々思っているところである。

この会は、医療関係の方や自治会の方や地域の方など、いろいろな方が出席されている会議なので、先ほどもいろいろな意見が出てきた。今後も、自分たちはこんなことが出来る、こんなことで困っている、などいろいろなことが話し合える場にしていきたいと思う。

山岡委員：今年度から委員をしている。当委員会は本当に幅広い分野、職種の委員が参加されており、様々な意見を吸い上げて健康づくり計画を作り上げているということに感心した。

鎌倉保健福祉事務所も、健康づくりを推進していきたい。

深澤副委員長：最近鉄のフライパンを購入して自分で料理をして、食育に取り組んでいる。

鎌倉市の印象だが、例えば東京都には行くのが怖いような地区もあるが、鎌倉にはない。そんな穏やかなまちなので、健康づくりや食育など皆の連携が進むのだな、と思いながら会議をご一緒させていただいている。

古屋委員長：これまでの委員会で様々な貴重な意見をいただけたと思うので、本当にありがとうございました。また、実際に鎌倉に住んでおられる方の意見がやはりその地域を代表する意見でもあると思うので、一市民となっても意見があったら市にいただければと思う。この委員会は開催回数が少ないというのはあるが、今後も様々な意見を取り入れていただけたらと思う。

事務局：年2回しか会議開催がないので、顔合わせの機会が少なく申し訳ない。

健康づくり計画を作る際、いろいろな意見が欲しいというような考えがあって、様々な分野の方に委員をお願いした経緯がある。例えば、若いうちから健康を意識して欲しいという考えのもと、商工会議所からは青年部に出ていただいた。

次は、委嘱期間が中途半端になってしまうが、引き続き委員をやっていただける方はぜひお願いしたい。市民委員は4月以降募集するが、再選も可能としているので、よろしかったらご応募いただきたい。それぞれの会から推薦で出ている委員の方々は、改めて会に推薦依頼をさせていただくかたちになるので、よろしくお願ひします。

古屋委員長：閉会。

以上